NIE実践報告

1．タイトル：新聞を読もう！

2．学校名

神奈川県川崎市立商業高等学校定時制

3．実践者名（代表者名）

横田智子（公民科）

4．学年

第1・2・3学年（全学年）

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

特講公民（選択教科）　48人

6．単元（本時の学習課題）名

新聞を読んで現代社会を知ろう（単元ではなく通年）

7．目標(狙い)

新聞の社説を中心に読み、有用な情報を主体的に選択し活用して学び方を身に付けるとともに、追究し考察した過程や結果を表明することができる。

8．評価の視点

毎回、自分の考えを表明する手段としてレポートを提出、有用な情報を活用して、追求した結果を表明することができたか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

前期（18時間）：教員の選択した社説を中心に読み、各自レポートを作成。
後期（17時間）：環境問題や身近な話題から興味や関心のある分野についてレポート作成。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

・前期は教員の提示した社説を中心に読み、個人情報保護法、赤ちゃんポスト、虐待、ネットカフェ難民、出生統計、高校改革、地球温暖化などを読み、「赤ちゃんポスト」の是非や「産む・産まない」の選択をどのように考えるのかディベートを実施した。
・前期後半から後期の当初は文化祭での発表を目標に地球温暖化に関する記事を読み続け、発表に向けての準備を行った。
・後期の中盤は「心がぽかぽかするニュース」を部分読みし、各自が自らのニュースを探索し、発表した。
・後期の総仕上げは、「あなたをハッピーにした新聞記事」を探し、応募した。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

当初は与えられた課題に対して、それぞれの意見表明をするにとどまったが、NIEの指定を受けて、各自が新聞を選択できるようになると、授業時間より早くに登校し、より各自の興味関心に応じた新聞記事を探そうと努力する生徒が多く見受けられ、それを楽しみにする生徒も増えた。

12．成果と課題

・地球温暖化に関するニュースには意外と生徒の関心が高く、記事の選択も熱心であったが、実際の生活場面では矛盾することも多く、知識や認識が行動と結びつくための手だてを再考する必要性を痛感した。
・ディベートや発表授業を予告すると、苦手意識から欠席をしてしまう生徒が少なからず見受けられた。一方で、はじめてディベートを体験した生徒からは他者の意見を聞けて、勉強になった、面白かった、もっとやりたいなど良好な反応も得られた。しかし、この授業は週に1時間しか無いため、感情を醸成したり、熟慮する時間に乏しい側面を持っているため、方法論に課題が残る。